

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1170700163
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	グループホーム 岩槻ケアセンターそよ風
所在地	〒339-0031 埼玉県さいたま市岩槻区飯塚1280-3 (電話) 048-791-7515

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月5日

【情報提供票より】(平成20年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10人, 非常勤 7人, 常勤換算	15.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	35,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,500円			

(4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	59 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	埼玉記念病院、南平野クリニック、永島医院、ほんまる歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、車の往来の多い道路のすぐそばにあるが、玄関を入ると手作りの神社の境内があり、利用者のお参りする姿がよく見られ、安心と懐かしさの感じられる空間となっている。大手法人が経営母体であるが、管理者と職員の熱意と努力で終末期にも安心して過ごせるようにと、主治医、家族、職員が話し合いを重ねて看取することもできる環境にある。各ユニットの廊下にはベンチがあり、個人の空間としても使用でき、利用者と訪問されるその友人とのミニ同窓会なども行われている。また、たばこやお酒などの嗜好品も職員の見守りによって楽しむことが可能である。利用者、家族で楽しむことができるバス旅行も毎年企画されており、ホームのイベント行事として利用者、家族、職員の新たな気づきと関係を築く機会となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議では、ホーム側からの開催呼びかけに参加者の出席が少なく、開催できていない状態である。また、職員の研修については、受講者の伝達報告が実施され、周知がはかれるようになった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は自己評価の意義は理解できているが、自己評価への取り組みにおいては職員の参加までには至っていない。自己評価票はユニットごとにそれぞれの記入がされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は前回評価の際は開催されていたが、現在は会議出席者が減少傾向にあり、開催できない状態が続いている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談の窓口については家族に書類や口頭で示し、いつでも意見や苦情を出していただけるような雰囲気作りに努めている。表出されたものについては職員間で共有して改善に努め、運営に反映できるようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会からの行事への呼びかけや、幼稚園の行事にも招待などを受けている。近所の人々とのあいさつや声かけなども積極的に行い、地域との連携を深めていけるような関係性づくりに努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営母体の理念を柱にしながらも、ホームの地域性を取り入れ、利用者の一人ひとりに合った支援を心がける事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時などに職員が理念を確認し合い、日々のケアの実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、お祭りなどにも参加の呼びかけをしてもらっている。幼稚園のお遊戯会などにも招待があり、出来るだけ参加をし、地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は共に評価の意義は理解をしているが、職員も参加しての自己評価には至っていない。なお、自己評価票はユニットごとに作成されている。		職員全員が自己評価に取り組むことでケアの質を上げることのチャンスと捉え、次回からはぜひ管理者と職員で取り組み、評価の意義の理解を活かしていくことが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は運営推進会議を開催していたが、最近は参加者が減少し開催ができない状況にある。		会議では情報交換に終わることなく議題を提示し、幅広い立場の人と話し合うなど、事業所の取り組みや改善課題などについて外部の人の目を通して定期的に話し合っていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム側からは窓口相談に出かけたり、電話で問い合わせをするなど行き来する機会を作るようにしているが、担当者との関係作りがまだできていない。		諦めないで積極的に働きかけ、関係づくりにつながる取り組みを継続していくことが期待される。市の担当者に事業所の見学を勧めるなどの接点を持つことも一考である。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「そよ風通信」を送付し、金銭管理の報告も定期的に行っている。面会時には出来るだけ家族と話をする時間を設けるようにしている。また、利用者の体調に変化のあるときは電話で報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情を出していただけるような雰囲気作りに努めている。契約時には家族に苦情相談の窓口を明示し、口頭でも説明を行っている。表出された意見等については職員間で共有するとともに改善に努め、運営に反映できるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内での異動は出来るだけ避けるように配慮している。やむを得ない離職や異動については、センター長はじめ職員が利用者のダメージを最小限に抑えるようにケアしている。また、報告については、利用者によりダメージを与えないように、一人ひとりの状況に合わせた説明の工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修会や、事業所内での研修は定期的開催し、出来るだけ全員が参加できるように配慮している。		職員のケアの向上に向けた研修計画を立て、内部研修だけでなく外部研修についても地域密着型サービスの理解や実践に役立つよう取り組まれることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性もあり同業者の交流は多いとは言えないが、在宅介護支援センターを通じて市内施設との交流を図っている。また、同一法人で運営している事業所を通じて、他のホームとの交流につながる取り組み等を行う計画がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族、本人に見学してもらったりホームの行事に参加してもらい、環境の変化によるダメージを少なくするよう、本人、家族、職員などで話し合いを重ねながらサービスの利用開始につなげている。また、空き部屋がある場合は体験入所も行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から昔話などを聞く中で、今の生活に欠けている人と人とのつながりや物を大切にすることを気づかされる。日常生活の中で教えてもらうことが職員にとっても学びの機会になっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、無理強いではなく本人の思いを汲み取る努力をしている。また、家族の話を聞いたりしながら本人の意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>普段から本人の意向を汲み取るとともに、面会時などでは家族にも思いや意見を聴き、反映させるようにしている。職員全員で意見交換をしながら、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状態に変化のあった際は見直しを行っている。また、カンファレンスを毎月1回定期的に行い、いつでも見直せるような体制をとっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の友人の訪問があった場合などは、外食支援のためにホームの車で職員が送迎支援を行っている。また、利用者の同窓会をホームで行ったり、緊急時の受診や家族が不都合な場合の受診対応等もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と十分な話し合いを行い、家族、本人の希望に沿って、入居前からのかかりつけ医の受診支援も行っている。通院も家族同行が無理な場合は職員が同行し、医療機関とも情報の共有ができています。また、ホームのかかりつけの内科、皮膚科、歯科の定期的な往診の支援もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には家族との話し合いや説明などを繰り返し、看取りの際も主治医、看護師、家族と話し合いを繰り返し、職員も方針を理解して関係者全員で協力体制がとれるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は利用者への言葉かけや、入浴、トイレ誘導などプライバシーに配慮した対応をしている。記録や個人情報についても鍵のかかる場所に保管をして取り扱いに注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で特に決まりごとはなく、散歩や買い物など利用者の希望に沿うように本人の気持ちを尊重した支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に近所のスーパーに食材を買いに出向いている。利用者の希望や状態に合わせて職員がユニットごとに工夫をしながら準備をしており、利用者も準備や片付けなどを一緒に行っている。また、定期的な外食など食事が楽しめる工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日入浴できるようにしている。時間帯も職員の都合に合わせてではなく、落ち着ける夕方などに時間帯を持ってくるなど工夫している。また、外気に触れながらの足浴などの支援もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙や漢字の書き取りなど、趣味のものを楽しむことができるように支援しており、お酒やたばこも特に規制はなく自由に楽しめる。食事の準備など自然に利用者の役割ができており、一人ひとりの力を活かした生活の支援に努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にはなるべく散歩に出かけるようにしている。また、美容院や図書館など利用者の希望に沿うように外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関は、車の往来の多い道路に直面しており、施錠がされている。各フロアでは部屋や居間などを自由に行き来することができ、職員が買い物に同行するなど、閉塞感のないよう支援に努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路の確保や連絡網なども含めた定期的な防災訓練を行っている。地域との連携をとれるように一方的にお願いするだけでなく、ホーム側からも手伝いに出向けるような近所づきあいの大切さを認識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本部からの栄養に配慮したメニュー表を元に献立が作られている。一人ひとりの体調に応じた食事形態がとられており、水分量や食事摂取量についてもチェック表を活用して職員がおおよそ把握している。医師の指示のある利用者については職員全員で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの個性に合わせた飾りつけがそれぞれになされている。また、廊下に備え付けの長椅子があり、個人の空間として使用できるように工夫がされている。程よい装飾であり、落ち着きと楽しさが感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望に沿った馴染みのものや好みのものが持ち込まれ、安心して過ごせるように配慮されている。		